



誰もが夢や希望を描ける 社会をつくる

子どもたちが夢や希望を描ける社会をつくるために私たち大人が、特に高齢者の皆様がどれだけ生き生きと楽しく毎日を過ごしているのかということがとても大切です。周りに暮らす高齢者の皆様が素敵な笑顔で元気に暮らしている、ここにずっと住み続けたいと思うものです。

市長に就任してから、多くの高齢者の皆様に「碧南市が明るくなった」、「暮らしやすくなったよ」といううれしい言葉を頂きます。碧南市は、子どもたちや若者が歳を重ねても元氣な笑顔で前向きに生活できるよう高齢者の皆様の全力で応援しています！

そこで、今年度も高齢者の皆様もつと元氣な笑顔で生活してもらうために、碧南市で特化して取り組んでいることをお伝えしたいと思います。

健康と生きがいづくり

- ・高齢者無料入浴サービス
- ・まちかどサロンでは認知症カフェなどの実施
- ・介護予防事業として筋トレルーム60、おたっしや大学などを無料に
- ・老人クラブやシルバー人材センターなどの社会参加活動への助成

支え合う地域づくり

- ・敬老会の助成と敬老金の支給
- ・63事業所と高齢者見守協定を締結
- ・介護サービスや保健、福祉、相談や生活援助、支援などを行う地域包括支援センター3か所、出張所1か所の設置

・認知症サポーター養成講座、支え合いサポーター募集及び安心ツス!!へきなん支え愛ネットの開設、徘徊高齢者位置情報システムとしてGPS端末の無料貸し出し、賠償責任保険事業や認知症伴走型支援の実施

安心して暮らせる生活の支援

- ・一人暮らしや寝たきりなどの状況に合わせた幅広いサービスとして、訪問理容、保健師などの訪問指導、タクシール料金助成、緊急通報システム貸与、寝たきり手当、介護用品支給、配食、寝具洗濯乾燥、家具転倒防止、火災報知器設置、簡易消火器配布、住宅改善費補助金、救急医療情報キット配布などの支援
- ・お仕事説明会、人材支援育成補助金での介護人材の確保

このほかにも多くの支援がございます。

「幸せとは、誰かのために生き、その人の幸せな姿をこの目で見ることです」というマハトマ・ガンジーの言葉がありますが、同様に多くの高齢者の皆様からも「私たちのことだけではなく、子どもたちのためにもっと力を入れてあげてほしい」という言葉も頂きます。

この温かな気持ちも持続していくことを碧南市は目指していきます。

碧南の歴史へのいざない

文化財課内市史資料調査室 41-4566

No.115 庁舎タイムスリップ(1)

碧南市役所(一)

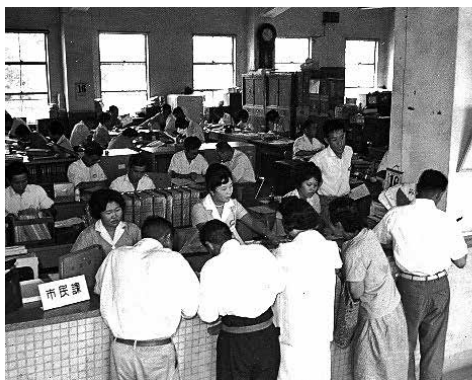
碧南市は昭和二十三年(一九四八)四月五日に新川町、大浜町、棚尾町、旭村が合併して発足しました。

町村合併では、行政機関も統合されます。新しい市の役所をどこに置るか協議の結果、市の中央部に設置することになりました。しかし、すぐに庁舎を建設することができず、ひとまず碧南商工高等学校(同年一〇月から碧南高等学校)の講堂を市役所として使うことになりました。各町村役場は碧南市役所支所として使用され、その後公民館や商工会議所として使用されました。

しかし、同年一二月指令のGHQ



△碧南市役所(昭和26年竣工)



△庁舎内の様子

覚書により、学校施設を借用できなくなったため、市役所機能は一旦、旧大浜町役場(現在の藤井達吉現代美術館の場所)に移されました。

そして、昭和二十六年(一九五二)一月一〇日、現在の市役所の位置に念願の庁舎が完成しました。この市役所は、鉄筋コンクリート造で二階一部三階(宿直室)建てでした。現在の市役所庁舎に比べ、小さいものの、当時の中央地区一帯には水田が広がっていたので、近代的な庁舎は一際目を引いたといえます。落成式では千五百発もの花火が上げられ、落成式後三日間、庁舎は一般公開されました。多くの市民が立派な庁舎に感動したといえます。